『日本言語文化研究』第 19 号（2015）

［研究ノート］類義副詞「とにかく」「ともかく」の用法の相違について

石田　裕子

1　はじめに

主観的に用いられる副詞には、類義的表現であるとされるものが多く存在する。そのなかで、「とにかく」と「ともかく」も、従来ほぼ同義的に置換可能なものであると考えられてきた。たとえば、用例(1)-a、(2)-a、(3)-a の「とにかく」は、(1)-b、(2)-b、(3)-b のように「ともかく」と置き換えても大意は変化しない。

(1)-a「薬物を使った可能性は？」

「死体からは何も検出されていない。まあ、そんな薬物が存在するのかどうかもわからんという話だけどな。とにかくその痣を除けば、死体は心臓麻痺で死んだものと考えて間違いないそうだ」

（東野圭吾『探偵ガリレオ』文藝春秋、2002 年）

(1)-b「薬物を使った可能性は？」

「死体からは何も検出されていない。まあ、そんな薬物が存在するのかどうかもわからんという話だけどな。ともかくその痣を除けば、死体は心臓麻痺で死んだものと考えて間違いないそうだ」

(2)-a また「他人とどの程度の敬語で話せばいいのか分からない。」ということから、とにかく丁寧に言っておけば間違いないだろ

うと思って話すのが理由のようです。

（田中浩史『ナースのための実践会話術 トレーニング編』2巻、桐書房、2004年）

(2)-b また「他人とどの程度の敬語で話せばいいのか分からない。」ということから、ともかく丁寧に言っておけば間違いないだろうと思って話すのが理由のようです。

(3)-a とにかくどちらかが犯人なのは間違いない。

(3)-b ともかくどちらかが犯人なのは間違いない。

本稿では、上記のように、従来は同義・同用法であると考えられてきた「とにかく」と「ともかく」を取り上げて用例検討および考察をおこない、その相違を明らかにする。

2 先行研究

「とにかく」および「ともかく」についての先行研究には、河原崎(1977)、グループ・ジャマシイ（1998）、酒井（1998）、川越（2000）がある。河原崎（1977）は、「とにかく」と「ともかく」に関して、

> 「とにかく」は「ともかく」は共通部分はあるにしても、たしかに異なっているような感じをいだかせるが、一つ一つ文例に当たってみると、すべて「とにかく」←→「ともかく」と交換できる。してみれば「とにかく」と「ともかく」を同じものと考えてよさそうだ（49ページ）

と述べており、また酒井（1998）も「『ともかく』は『とにかく』の異形であり、意味・機能は同じものとみられる」（4ページ）としている。さらに川越（2000）は、話題転換の接続表現として、「とにかく」を取り上げ、その同義の表現として「ともかく」を挙げている。以上に挙げた研究は、いずれも「とにかく」と「ともかく」の差異を考察しているものではなく、それらを同義として扱い、他の表現と比較しているものである。

ただし、酒井（1998）は「とにかく」と「ともかく」が同じものであると述べる一方で、「『Aは（なら）とにかく（としてB）』の形をとる文では、……『とにかく』より『ともかく』が使われることが多い」（7ページ）とも述べ、両者の使用には傾向差があるとしている。

以上のとおり、「とにかく」と「ともかく」の用法の傾向差に多少言及しているものはあるが、多くの先行研究は、両者を同義的な表現として扱っている。

唯一、「とにかく」と「ともかく」に関して異なる記述がみられるのはグループ・ジャマシイ（1998）である。同書では、「とにかく」と「ともかく」に関して、次のように述べられている。

【とにかく】

あることがらや行為について、それはひとまずおいておいて、それより他のことがらや行為を優先させて扱うことを表す場合に用いる。「ともかく」とも言う。

1　とにかく

「いろいろあるだろうが、まず何よりも」という意味を表す。後に平均的ではない程度を表す表現を伴い、「非常に／大変／すごく…だ」といった意味を強調するのに用いる。話しことば的。

2　とにかくV

意志的な行為を表す動詞を後に伴い「ほかの事情はどうであれ、まずこの行為を優先して」という意味を表す。

3　Nはとにかく（として）

名詞を受けて、それよりももっと大事なことや、先に行うべきことなどを対比させて言う場合に用いる。会話では、「それはとにかく（として）」のような形で文頭で相手の発言を受け、それと異なる別の話題を持ち出すような場合にも用いられる。

（353ページ）

【ともかく】

1　Nはともかく（として）

「それは議論の対象からはずして」という意味を表す。

2　ともかくV

意志的な行為を表す動詞を後に伴い、いろいろ議論するよりも、まずは実行するという意味を表す。

(360－361ページ)

以上の記述によれば、「とにかく」および「ともかく」は、上記の「とにかく」1の用法が「ともかく」に存しないという点以外は、用法が重なっており、ほぼ同義的な表現であるということになる。しかし、下記の例(4)のように、「とにかく」1にあたる表現であっても、「ともかく」との置換が可能かと思われる例も存在する。

(4)-a 最近立て続けに仕事が入って、とにかく忙しい。
(4)-b 最近立て続けに仕事が入って、ともかく忙しい。

このようにして見てくると、従来考えられてきたように、「とにかく」と「ともかく」はやはり同義・同用法であり、両者は単に語形の上での異形態に過ぎないと考えることもできるが、本当にそうなのだろうか。以下では、これらの点に関して、コーパスを利用し、現代語における「とにかく」および「ともかく」の相違について再検討する。

3　「少納言」による検証

KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』少納言」(http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/)（以下、「少納言」と記す）において無作為抽出された用例から、グループ・ジャマシイ（1998）に記述されている文型をもとにした用例調査をおこなう。ここで注目したいのは、同書で「とにかく」3および「ともかく」1として挙げられている「Nはとにかく／ともかく（として)」というパターンである事項Nを取り上げて、それをひとまず除外・留保するといった用法と、「とにかく」1として挙げられている、後に続く事柄の程度をあらわす用法である（「とにかく」2および「と

にかく」2の、「いろいろあるだろうが、まず何よりも」といった意味での用法では、「とにかく」と「ともかく」には、特に違いは出ないと考える)。以下、前者を①除外・留保用法、後者を②程度用法と呼び、この2つの用法について考察する。一方なお、①の除外・留保用法に関しては、「N ならとにかく／ともかく（として)」も同じ表現として、数に含む。

「少納言」では、コーパスに収録されているデータのうち、閲覧できるものは1条件につき500件に限定されていることから、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」に収録されている「とにかく」7591件および「ともかく」3367件のすべてのデータを閲覧することはさしあたり不可能であり、以下の分類のデータはすべて1条件で検索して得られたものである。そのため、条件により500件出てきた場合もあれば、それよりも少ない場合もあること、および一部の検索結果を除外したものであること（注1）に留意されたい。なお、①除外・留保用法は、前文脈「は」と「なら」を別条件として検索したため、双方の検索結果を合計して、表示件数「とにかく」770件と「ともかく」1000件のデータを参照した。その結果、①除外・留保用法は、前文脈「なら」と「は」を合計して、「とにかく」では8例、「ともかく」では629例みられた（表1、2を参照)。また、②程度用法においては、「とにかく」99例、「ともかく」15例が確認できた（表3を参照)。

表1.①の用法の「ともかく」
(()内はデータの総数)

	表示件数	用例数
前文脈「は」(2567)	500	251
前文脈「なら」(526)	500	378
合計	1000	629

2014.8.13閲覧

表2.①の用法の「とにかく」
(()内はデータの総数)

	表示件数	用例数
前文脈「は」(4566)	500	3
前文脈「なら」(270)	270	5
合計	770	8

2014.8.13閲覧

表3.②の用法の「とにかく」、「ともかく」
(()内はデータの総数)

	表示件数	用例数
とにかく (7591)	500	99
ともかく (3367)	500	15

2014.8.13閲覧

以上の調査から明らかになったことを記す。まず、①除外・留保用法に関しては、従来きちんとした指摘のなかった用法の違いが明確にあらわれた。すなわち、この用法の「ともかく」が 629 例確認できた一方、「とにかく」は 8 例のみであった。数字的に見て、この用法では圧倒的に「ともかく」が用いられており、「とにかく」の使用は混同による誤用とみられる。したがって、従来「N は／ならとにかく（として）」および「N は／ならともかく（として）」という双方の用法が可能と考えられてきたが、実質的にこの用法は「ともかく」に独自のものとみるべきであることが明らかとなった。

このことに関しては、次のような事実にも注意したい。「ともかく」が①除外・留保用法で用いられる場合には、「N は（／なら）ともかく（として）」の他に、次の(8)-a のように、「N は（／なら）ともかくも」という形も可能である。しかし、こうした「ともかく」を(8)-b のように「とにかく」に置き換えると、明らかに不自然になる。

(8)-a 理由はともかくも、あなたがやったことは犯罪だ。
(8)-b*理由はとにかくも、あなたがやったことは犯罪だ。

また、「とにかくも」および「ともかくも」を「少納言」において除外・留保用法と同条件で検索したところ、こうした用法の「ともかくも」は 19 例確認できたが、「とにかくも」は 1 例も確認できなかった。このような

事実からも、除外・留保用法は「ともかく」に限られる用法であると判断される。

つぎに、②程度用法について、見てみる。検索の結果、「とにかく」が程度用法として用いられている例は 99 例、「ともかく」が程度用法として用いられている例は 15 例確認できた。この結果から考えると、確かに程度用法では「とにかく」を用いることが一般的であるが、「ともかく」もある程度用いられるものといってよいだろう。ただし、やはり程度用法では、「とにかく」を用いるのが普通だという意識が一般にあるのではないかとも思われる。たとえば、次の用例(9)では、除外・留保用法には「ともかく」が用いられ、程度用法には「とにかく」が用いられており、両者は意図的に使い分けられているとみられる。

(9)味のほうはともかくとして、とにかく珍しい。
（内田康夫『祟徳伝説殺人事件』角川春樹事務所、1997 年）

実際の「とにかく」と「ともかく」の使用において、こうした使い分けがなされている例があることが観察されることからも、一般の日本語話者のなかにも、程度用法では「とにかく」を用いるのが普通だという意識がある程度存在することがうかがわれる。

以上、用例調査から、上述の二点の事実が確認できた。

ところで、①除外・留保用法は「ともかく」独自のものではなく、双方の表現に共通するものであるとの指摘が存在する。2 で取り上げた河原崎（1977）では、「とにかく」と「ともかく」は完全に互換可能な表現であるとして、①の用法にあたる次の例を示している。

(10)それはとにかくとして。
（増田綱編『研究社新和英大辞典 第四版』研究社、1987 年）
(11)金高はとにかくとして、お礼をしなくてはいけない。
（増田綱編『研究社新和英大辞典 第四版』研究社、1987 年）

また、中道（1991）も、「Nは（／なら）ともかく（として）」という用法にあたるものに「とにかく」が用いられている例として、以下の2例を挙げている。

(12)内容はとにかく、字だけはきれいに書きなさいよ。
（国立国語研究所『日本語教育指導参考書19 副詞と意味の用法』大蔵省印刷局、1991年）
(13)車はとにかくとして、冷蔵庫は早く買わないと不便だろう。
（国立国語研究所『日本語教育指導参考書19 副詞と意味の用法』大蔵省印刷局、1991年）

しかしながら、以上に挙げた(10)～(13)の例は、辞書や指導参考書に記載されている作例であり、実際の用例とはいえない。また、「少納言」に収録されているデータは河原崎（1977）や中道（1991）が執筆された年代のものも含んでいるが、そうしたデータのなかにも、「N は／ならとにかく／ともかく（として）」という文型が用いられる際には圧倒的に「ともかく」を使用している用例が多いということから考えても、「N は／ならともかく（として）」という文型は「ともかく」に独自の表現であるということができるであろう。

4 結び

従来、「とにかく」および「ともかく」はほぼ同義の表現であると考えられてきた。しかし、本稿では、「とにかく」と「ともかく」の明確な差異として、「Nは（／なら）ともかく（として）」という用法が「ともかく」のみに存在していることを指摘した。また、程度の高さを示す用法として主に用いられるのは「ともかく」であることも示した。以上のとおり、「とにかく」と「ともかく」は、完全に同用法のものとして捉えることはできないということが確認できた。

注：

1．「とにかく」「ともかく」の分類において除外した用例は、以下3点のいずれかに該当するものである。

(1) 前条件で絞った検索条件と一致しない用例。

「少納言」では、前文脈とは検索対象の語が用いられる以前の文脈すべてを含んでいる。たとえば「Nはとにかく（として）」という形を求める際に、前文脈「は」で検索すると、「とにかく」が用いられている文より以前の文に「は」が含まれているものすべてが表示される。たとえば、次例のようなものである。

(5) ただしラジオの情報では、この異常気象も今夜が峠だそうです。とにかく、いったん二階へ引き上げましょう

（倉阪鬼一郎『白い館の惨劇』、幻冬舎、2000年）

(2)「少納言」の検索結果にあらわれた本文の一部からは、文意の判断ができないもの。たとえば、次のような文意不明の例は省いてある。

(6) 'hotel（コック長）などがこうした態度形成にあずかって力あったわけなのだが、とにかく、おじさんは、bonvivant, grand seigneur……

（ヴィトルド・ゴンブローヴィッチ著、米川和夫訳『集英社ギャラリー『世界の文学』』集英社、1989年）

(3) 次例のように、「とにかく」「ともかく」ではない語が抽出されているもの。

(7)……ただ一筋の遺籍を与えてくれたのが、野口の詩集を贈った女友達であることともかくしていない。

（澤地久枝『石川節子 愛の永遠を信じたく候』講談社、1981年）

また、後で少しふれる「ともかくも」も、「ともかく」の検討においてはいったんその対象から除いている。

＜参考文献＞

川越菜穂子「『話題の転換』をあらわす接続表現について―『ところで』と『とにかく』―」（『帝塚山学院大学人間文化学部研究年報』2号、帝塚山学院大学、2000年）

河原崎幹夫「副詞の導入の具体的研究 3 ―なにしろ・とにかく・ともかく―」（『日本語学校論集』4号、東京外国語大学外国語学部附属日本語

学校、1977年）
グループ・ジャマシイ編著『教師と学習者のための日本語文型辞典』（くろしお出版、1998年）
酒井悠美「きがまえの陳述詞『とにかく』『いちおう』（『とりあえず』）」（『うなびこ』13号、日本語学研究会、1998年）
中道真木男「副詞の用法分類――基準と実例――」（『日本語教育指導参考書19 副詞の意味と用法』大蔵省印刷局、1991年）

（龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻）